

審 議 経 過

- 1 開 会（まちづくり課 古竹課長）
あいさつ（岩永会長）
- 2 辞令書交付
- 3 会長及び副会長の改選
- 4 令和5年度伊万里市さが未来アシスト事業費補助金事業の審査について
 - （1）審査方法等の説明（事務局）
 - （2）事務局より事業概要の説明（事務局）
 - （3）新規応募団体による事業内容の説明・質疑応答

◆質疑応答

①絶滅危惧ⅠBのチョウ「タイワンツバメシジミ」の保存活動

大野岳タイワンツバメシジミ保存会（説明者1名）

Q：令和4年度の生息数調査で個体数が急増しているが、これは保存活動の成果であるか。

A：個体数調査は、40日間でその日の当番が個体数をカウントし、積み上げた数字である。現在、会員の高齢化が進み個体数調査の正確性について少々問題があるが、個体数自体は保存活動を長年続けてきたことで、確実に増加していると専門アドバイザーの方からもお話があった。

Q：平成26年から現在に至るまで、個体数は自然に増えてきているのか。

A：生息が確認された平成26年当時は乱獲を防止する法的な規制がなく、
訪問者に捕獲を止めるよう注意をしたが、なかなか聞入れてもらえず、
乱獲が続いていたため個体数は減少していたと考えられる。

②コミュニティ活動拠点の災害避難所併用による地域力の創造

特定非営利活動法人NPO栄町地域づくり会（説明者1名）

Q：栄町に自治公民館はあるのか。

A：自治公民館もあり災害時の避難場所として指定されているが、広間が2部屋
しかなくまた、テレビもないため災害時の避難場所としては環境が悪く、
前回も利用者はいなかった。

③家読講演会事業・家読ウォークラリー開催事業・家読郵便ポスト設置事業

黒川町家読連絡会（説明者1名）

〈質疑応答なし〉

④「全町民参加型」まるごと大川内プロモーション大作戦！！

大川内町まちづくり運営協議会（説明者1名）

Q：令和4年度で写真はどれくらい集まったのか。また、利用者はどれだけいたか。

A：写真は504枚集まった。コロナ禍の影響でなかなか利用者は伸びなかったが、
行事の際に放映することで、皆さんの話題が生まれ町民同士の交流が図られた。

Q：核家族化が進んでいる中で、若い親世代の方々の反応はどうだったか。

A：学校行事で放映した際にこの取組みが話題にあがり、親御さんたちに
個人のSNSで宣伝をしてもらった。また、中には放映している動画を
スマートフォンに収める方もいらっしやり、関心は高いと考えている。

(4) 審査結果のとりまとめ

審査については必要性・緊急性（4点）、効果と継続性（4点）、アピール性（2点）の3項目を審査の基準とし、10点満点で採点を行った。

採点の結果、各事業の平均点が次のとおりとなった。

◎ 伊万里市さが未来アシスト事業費補助金事業

①絶滅危惧ⅠBのチョウ「タイワントンツバメシジミ」の保存活動

8.5点（大野岳タイワントンツバメシジミ保存会）

②コミュニティ活動拠点の災害避難所併用による地域力の創造

7.1点（特定非営利活動法人NPO栄町地域づくり会）

③家読講演会事業・家読ウォークラリー開催事業・家読郵便ポスト設置事業

7.7点（黒川町家読連絡会）

④「全町民参加型」まるごと大川内プロモーション大作戦！！

6.0点（大川内まちづくり運営協議会）

※審査要領により、委員全員の平均6点以上を採択するため、応募のあった4事業は採択とする。

※各団体に対する補助金や交付金額については、佐賀県の事業決定を参考とし、事務局で再度査定し決定する。

5 連絡事項等

6 閉 会（岩永会長）

※主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。